

# 令和6年度 血液事業への取り組みについて



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society



令和7年9月19日(金)  
令和7年度第2回  
血液事業部会運営委員会資料

# 1. 令和6年度事業概況

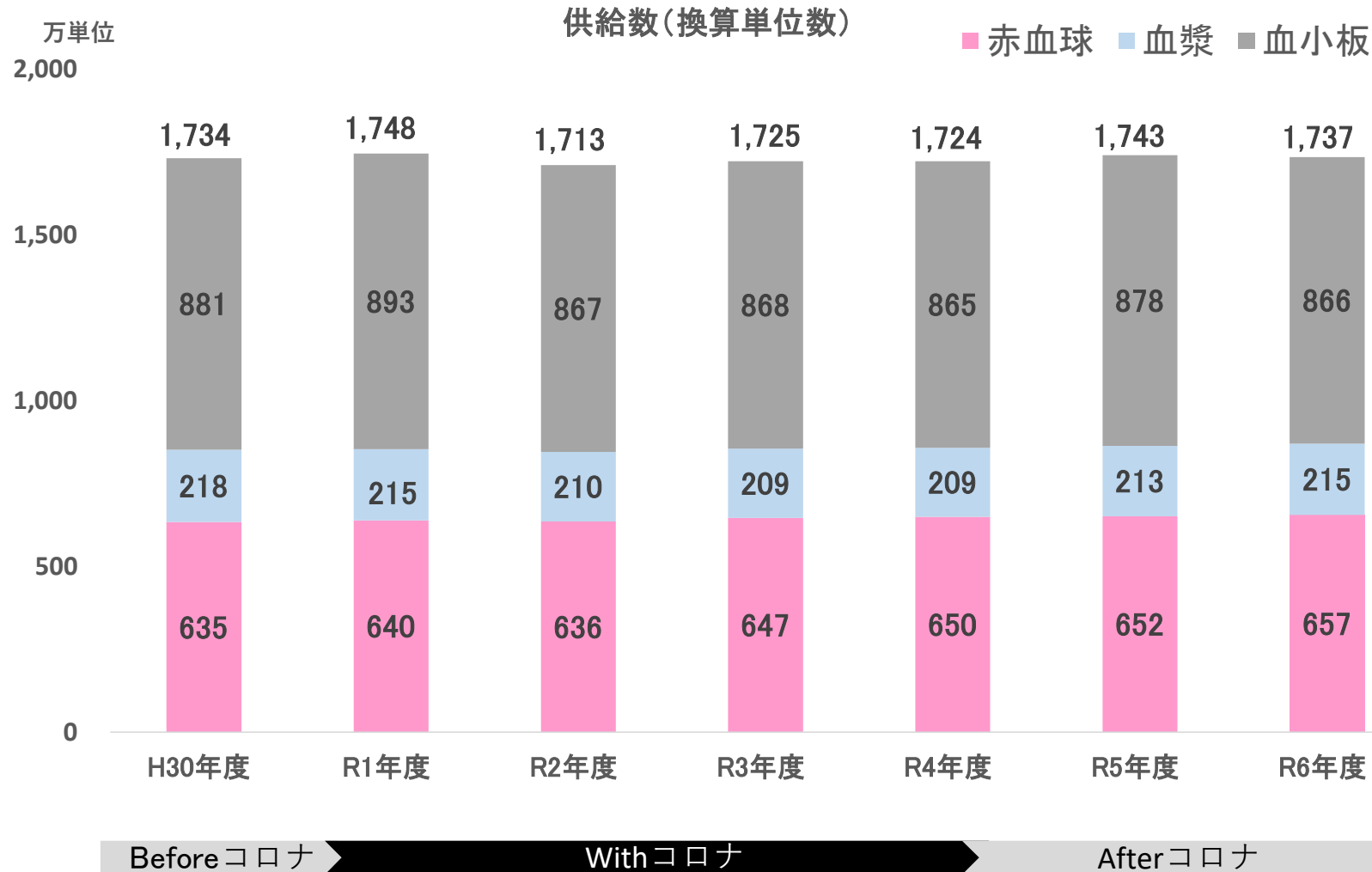
|                              |         |                 |                             |
|------------------------------|---------|-----------------|-----------------------------|
| 供給実績<br>(輸血用血液製剤の<br>供給数)    | 赤血球製剤   | 657万単位(334万バッグ) | 合計<br>1,737万単位<br>(505万バッグ) |
|                              | 血漿製剤    | 215万単位(89万バッグ)  |                             |
|                              | 血小板製剤   | 866万単位(82万バッグ)  |                             |
| 供給実績<br>(血漿分画製剤用<br>原料血漿供給量) | 凝固製剤用   | 23万L            | 合計<br>120万L                 |
|                              | 一般製剤用   | 98万L            |                             |
| 採血実績<br>(献血者数)               | 全血献血    | 344万人           | 合計<br>499万人                 |
|                              | 血漿成分献血  | 102万人           |                             |
|                              | 血小板成分献血 | 53万人            |                             |

※ 供給数は200mL全血献血から得られる量を1単位として換算した数。血漿製剤の換算は、FFP-120を1単位、FFP-240を2単位、FFP-480を4単位としていること。カッコ内は実バッグ数。

※ 数値については四捨五入していることから、合計と内訳の計は必ずしも一致しないこと。

※ 採血実績の血漿成分献血については、血漿分画製剤用原料血漿確保量124.3万Lとした献血者数であること。

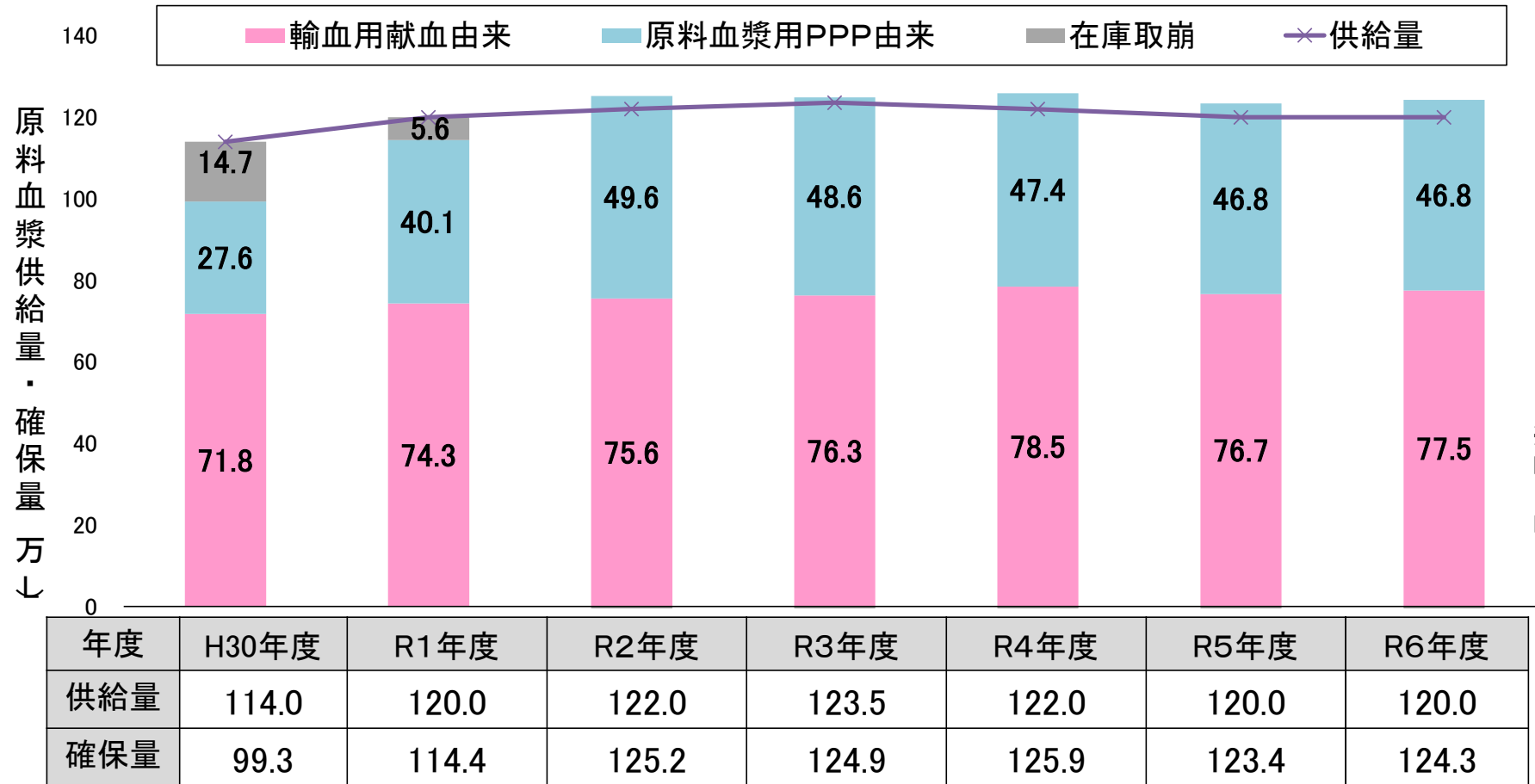
## (1) 輸血用血液製剤の供給実績



※ 供給数は200mL全血献血から得られる量を1単位として換算した数。血漿製剤の換算は、FFP-120を1単位、FFP-240を2単位、FFP-480を4単位としていること。

※ 数値については四捨五入していることから、合計と内訳の計は必ずしも一致しないこと。

## (2) 血漿分画製剤用原料血漿供給及び確保実績



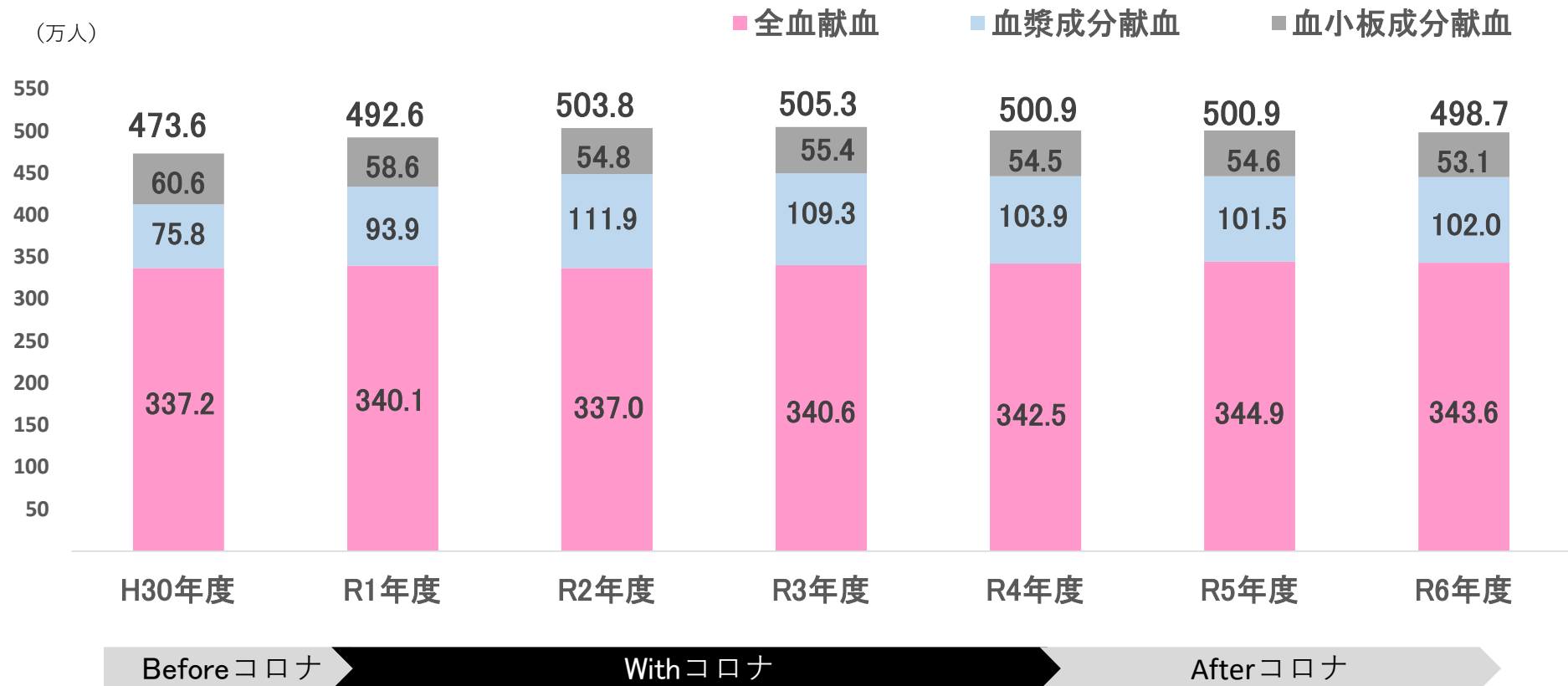
※数値については四捨五入していることから、合計と内訳の計は必ずしも一致しないこと。

供給量：国が需給計画で定める量

確保量：供給量等に基づき日本赤十字社が確保する量

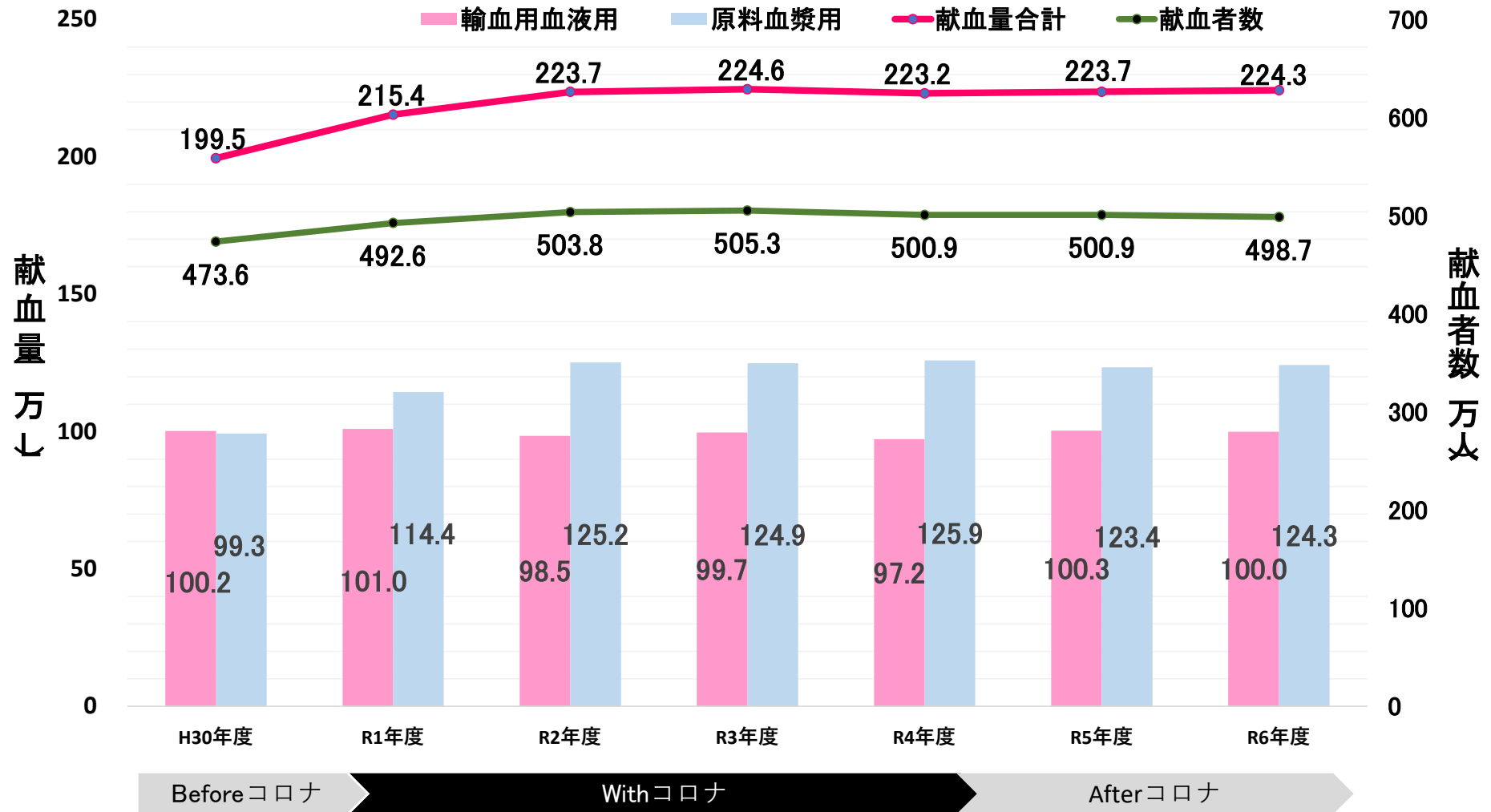
### (3) 採血実績(献血者数)

#### 献血者数(総数)の推移



※数値については四捨五入していることから、合計と内訳の計は必ずしも一致しないこと。

## (4) 献血量と献血者数



※数値については四捨五入していることから、合計と内訳の計は必ずしも一致しないこと。

## 2. 令和6年度の主な成果

### (1) 若年層を中心とした各年齢層への献血推進

#### 主な取り組み

ア 年間献血推進方策

イ 献血セミナー動画の作成

ウ 大勢川崎病支援プロジェクト

#### 成果



大勢川崎病支援プロジェクト

## ア 年間献血推進方策

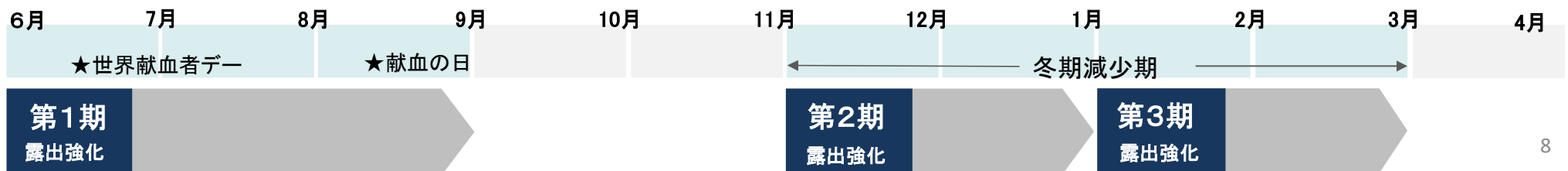
### (ア) 目的

献血を国民運動として広く周知し、減少傾向である若年層（10代～30代）献血者がより自然に献血できる風土の醸成と、40～60代の各年代に対しても今まで以上に献血運動に賛同いただけるような方策を実施し、将来にわたり持続可能な献血基盤を構築する。

また、献血減少時期（1～2月）においては10代～20代前半を中心に広く国民各層へ献血に関する理解と協力を求める。

### (イ) キャンペーン期間

令和6年6月3日（月）～令和7年4月30日（水）



## (ウ) 実施内容

### 第1期(6月～8月)

- ① テレビCM放映(15秒×2種)
- ② WEB動画CM放映(15秒×2種)
- ③ 交通広告
- ④ ラジオCM放送(20秒)
- ⑤ ポスター掲示 ※年間を通じて常設
- ⑥ 特設WEBサイト ※年間を通じて常設
- ⑦ 映画「ディア・ファミリー」とのタイアッププロモーション

### 第2期(11月～12月)

- ① テレビCM放映(15秒×2種)
- ② WEB動画CM放映(15秒×2種)
- ③ 交通広告
- ④ ラジオCM放送(20秒)

### 第3期(1月～2月)※はたちの献血キャンペーン

- ① テレビCM放映(15秒)
- ② WEB動画CM放映 ※SNS広告含む(15秒)
- ③ ラジオCM放送(20秒)
- ④ ポスター掲示
- ⑤ 特設WEBサイト



赤十字は、動いてる!  日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

年間施策ポスター

## 新幹線へのポスター掲示と電光掲示板広報

### ポスター

【掲出区間】東海道・山陽新幹線（東京～博多間）

【掲出期間】令和6年8月1日（木）～8月31日（土）



車両に掲載されたポスター

### 電光掲示板

【掲出区間】東海道・山陽新幹線（東京～博多間）

【掲出期間】令和7年4月1日（火）～4月30日（水）

【メッセージ内容】

「ご移動おつかれさまです。ふうっと一息つきたい時は、献血ルームもおすすめです。いつも献血へのご協力ありがとうございます。 日本赤十字社」

# 献血の日に実施した施策

## 献血の日周知うちわの配布

| 実施時間        | 配布数    |        |        |        |        |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
|             | 16日(金) | 17日(土) | 19日(月) | 21日(水) | 23日(金) |
| 7:30-9:30   | 1,100  | 1,200  | 900    | 1,000  | 1,000  |
| 9:30-11:30  | 700    | 600    | 700    | 250    | 500    |
| 11:30-13:30 | 400    | 350    | 250    | 250    | —      |
| 13:30-15:30 | 300    | 350    | 150    | —      | —      |
| 合計          | 2,500  | 2,500  | 2,000  | 1,500  | 1,500  |



甲子園駅前でうちわを配布する様子



うちわ(表面)



うちわ(裏面) 11

## 令和7年「はたちの献血」キャンペーン

### 【コンセプト】

波及力の高いアニメーションを初めて使用し、「自分も人の役に立つことができる」という気づきを描くことで、20代前後の若者からの共感を得る。

### 【期 間】

令和7年1月1日(水)～

令和7年2月28日(金)



# はたちの献血

赤十字は、動いてる! 日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

THINK  
献血

令和7年「はたちの献血」ポスター 12

## イ 献血セミナー動画の作成

### 【内容】

「献血経験者へのインタビュー」

+

「初めての献血に密着」

### 【配付時期】

令和7年3月



献血セミナー動画の一部抜粋

## ウ 大勢川崎病支援プロジェクト(T-Project)

### 【主旨】

川崎病を患った経験のある読売巨人軍の大勢選手から、川崎病患者支援の活動をしたい旨申し出があり、大勢選手、読売巨人軍、日本川崎病研究センター、日本赤十字社が協働し支援につながる活動を実施

### 【活動内容】

- ・川崎病啓発動画の作成
- ・大勢選手とコラボした献血記念品の配布 等



作成した川崎病啓発動画

### 【川崎病とは】

川崎病は、1967年に日赤中央病院(現・日本赤十字社医療センター)小児科医であった川崎富作先生が最初に報告した原因不明の病気です。

主に乳幼児に見られる急性熱性疾患であり、全身の血管に炎症が起こる病気で、心臓の冠動脈に動脈瘤ができることがあります。

そのため、早期に血漿から作られる免疫グロブリン製剤を用いた治療が必要です。

## (2) 医療機関との連携

### 主な取り組み

- ア 医療機関の満足度及び血液事業に対するニーズを調査・分析するため医療機関意識調査(3年に1回)を実施
- イ 医療機関との相互理解を目的とした情報媒体の発行

### 成果

- ア 医療機関意識調査の結果  
前回調査(令和3年)時より、総合的な評価として、血液事業に対する満足度は向上
- イ 情報媒体を定期的に発行

## ア 医療機関意識調査の概要と回答率

### 目的

血液事業に関する医療機関の満足度及びニーズを調査・分析することにより、問題点及び課題を明らかにし、今後の血液事業に反映させることを目的とする。併せて医療機関との信頼関係の構築及び相互理解の促進を図ることとする。

### 調査期間

令和6年6月3日(月)～7月19日(金)

### 対象施設

令和5年度における各血液センター供給量上位80%以内の医療機関637施設を対象

### 調査対象者(回答者)

- 輸血管理部門  
輸血管理全般を日常的に行っている検査技師等
- 輸血責任医師  
輸血業務全般に実務上の監督及び責任を持つ医師

### 調査形式(回答方法)

Webアンケート方式

### 回答率

- 管理部門担当者:96.1%
- 輸血責任医師:75.8%

## 【参考：調査項目及び設問内容】

### 輸血管理部門

(8項目34問)

| 項目                         | 内容                                                                              |
|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 基本属性                       | 一般病床数、救急体制、年間手術件数、診療科の有無(心臓血管外科・血液内科・産科)、造血幹細胞移植の有無、輸血管理料の取得状況                  |
| 供給に関する事<br>こと              | Web発注システム、現行の定時配送(便数・締切時間・到着時間)、血小板製剤の予約発注、緊急時の発注理由                             |
| 輸血検査に関する事<br>こと            | 輸血検査(依頼検査)の対応、窓口担当者の対応、結果報告書の内容                                                 |
| 製剤に関する事<br>こと              | 新鮮凍結血漿-LR「日赤」480の破損状況の変化、製剤ラベルの二次元バーコードの読取、輸血用血液製剤の不具合対応                        |
| 輸血副作用及び<br>遡及調査に関する事<br>こと | 「医薬品副作用救済制度」「生物由来製品感染等被害救済制度」の認知度、輸血副作用(TRALI・TACO)について、遡及調査について、輸血後の使用済みバッグの保管 |
| 情報提供に関する事<br>こと            | 情報媒体の満足度、「日本赤十字社医薬品情報ウェブサイト」の利用頻度、「医薬品情報のメール配信サービス」の登録状況、情報提供の方法                |
| 赤血球製剤の有効<br>期間延長の影響について    | 廃棄量の動向、影響があった製剤の血液型、有効期間延長後の在庫数の見直し、その他影響等                                      |

| 項目               | 内容                                                    |
|------------------|-------------------------------------------------------|
| 輸血前の外観<br>確認について | 外観確認の実施状況、外観確認の実施者及び実施タイミング                           |
| 全般的なこと・<br>その他   | 「ラブラッド」の認知度、「ありがとうの声」の認知度及び協力意思の確認、血液事業全般の満足度、ご意見、ご要望 |

### 輸血責任医師

(5項目10問)

| 項目                         | 内容                                                  |
|----------------------------|-----------------------------------------------------|
| 基本属性                       | 担当診療科                                               |
| 供給に関する事<br>こと              | Web発注システムについて、供給体制の満足度                              |
| 輸血用血液製<br>剤について            | 赤血球製剤の有効期間延長に伴う輸血医療・輸血体制への影響、輸血用血液製剤のご意見・ご要望        |
| 輸血副作用及び<br>遡及調査に関する事<br>こと | 輸血関連循環過負荷(TACO)についての発生予防の取り組み                       |
| 情報提供に関する事<br>こと            | 情報媒体(輸血情報)の満足度、希望する情報提供内容                           |
| 全般的なこと・<br>その他             | 輸血用血液製剤の需要動向に影響する要因、血液事業全般についての総合評価、血液事業についての意見・要望等 |

# 医療機関との相互理解を目的とした情報媒体の発行

## 配布対象

医療関係者(医師、薬剤師、臨床検査技師、看護師他)  
但し、対象者は限定しない

## 掲載内容

- 血液事業を取り巻く話題
- 輸血用血液に関する豆知識
- 学会発表内容
- その他(医療機関に伝達したい内容)



### (3) 輸血後副作用の減少を図る安全な輸血用血液の供給

#### 主な取り組み

令和7年7月から細菌スクリーニング  
血小板製剤の供給開始に向けた準備、  
課題への対応と進捗管理等を実施

#### 成果

- ・製造販売承認を取得
- ・全職員向け教育訓練を実施
- ・各種学会への情報共有
- ・供給開始に向けた各種課題への対応

### 3 血液事業特別会計歳入歳出決算

#### (1) 令和6年度決算の概要

|         | 令和5年度   |   | 令和6年度   | 増減額   | 増減率   |
|---------|---------|---|---------|-------|-------|
| 収益的収入合計 | 1,665億円 | → | 1,656億円 | △8億円  | △0.5% |
| 収益的支出合計 | 1,574億円 | → | 1,525億円 | △49億円 | △3.1% |
| 収支差引額   | 90億円    | → | 131億円   | +40億円 |       |

|         | 令和6年度                        |
|---------|------------------------------|
| 資本的収入合計 | 214億円（自己資金205億円、補助金等収入9億円）   |
| 資本的支出合計 | 214億円（固定資産支出211億円、借入金等償還2億円） |

※1億円未満切捨て

※端数処理の関係上、増減額及び内訳が一致しない場合があること。

## (2) 令和5年度事業収支との比較(事業収益／事業費用)

### 事業収益の減少 △4.8億円

|                    |             |        |
|--------------------|-------------|--------|
| ア 赤血球製剤の収益増加       | (4.2万単位増加)  | +3.9億円 |
| イ 血漿製剤の収益増加        | (2.0万単位増加)  | +1.5億円 |
| ウ 血小板製剤の収益減少       | (12.1万単位減少) | △9.9億円 |
| エ 原料血漿及びその他事業収益の減少 |             | △0.4億円 |

### 事業費用の減少 △50.0億円

|                                 |           |         |
|---------------------------------|-----------|---------|
| ア 人件費                           |           | △47.9億円 |
| ■退職給付にかかる決算整理による減少              | 【△51.4億円】 |         |
| ■その他人件費の増加                      | 【+3.5億円】  |         |
| イ 材料費                           |           | +7.3億円  |
| ■資材値上げの影響等による増加                 | 【+7.3億円】  |         |
| ウ 経費                            |           | △9.9億円  |
| ■次期基幹システム用クラウドサービスの利用等に伴う通信費の増加 | 【+5.3億円】  |         |
| ■租税公課(主に消費税)の減少                 | 【△13.0億円】 |         |
| ■減価償却費の減少                       | 【△9.7億円】  |         |
| ■その他経費の増加                       | 【+7.5億円】  |         |
| エ その他事業費用の増加                    |           | +0.5億円  |

令和6年度の退職給付にかかる決算整理では、金利の上昇等によって退職給付債務(将来の退職金の支払に備えた負債)が期首見積よりも減少したことで、人件費に大きな非資金性の戻入が発生した。

【参考】  
 事業費用/人件費の区分における決算整理の影響額  
 R6: △93.5億円  
 R5: △42.0億円

※0.1億円未満切捨て  
 ※端数処理の関係上、増減額及び内訳が一致しない場合があること。

## 【参考】収支状況の推移

### ・H24～H27年度

ブロック血液センターの整備、血液事業情報システムの導入等の大きな投資のため、平成24年度からの広域事業運営体制導入以降、一時的に赤字決算が続いた。

### ・H28年度～

事業効率の改善や当該投資に係る減価償却費の減少、施設整備の凍結等の結果、黒字決算となっている。

現在、基幹システムへの更新や新たな成分採血装置の導入、PAS血小板製剤の導入等の血液の安全性及び品質等の向上等にかかる投資を行っている。

